

### アル・プラザ城陽で販売実習

## 「いらっしゃい」アピール盛ん

### 宇治支援学校高等部

見据えた接客サービスやコミュニケーション能力の向上へ生徒たちは経験を積んだ。次年度取り組む2年生9人も見学・お手伝いし、同校の窯で焼き上げられた100円500円という価格帯のカップや皿、マグネットなどに買い物が注目を寄せ、手にして品定めすると、お気に入りの商品を朝10時の開始から売れ行き好調で、教職員に後押しされる生徒たちは呼び込みを励んだ。3年の中野裕哉さんは「大きな声でいらっしゃいませ、と呼び掛けています」と笑顔を弾ませた。【写真―中野裕哉さんもお買い上げがあったお客様に手渡した(アルプラザ城陽)】

アル・プラザ城陽で26日、府立宇治支援学校(池原幸代校長)＝宇治市広野町丸山＝高等部くらし地域コースの3年生8人が販売実習にチャレンジし、買い物客と交流を深めた。同校は、地域と交流・貢献をコンセプトに掲げ、生徒が手作りした製品を販売する実習を大丸京都店で開校当初より実施。地元のアル・プラザ城陽でも2017年9月にスタートさせ、前・後期と年2回の実習を続け、自作した製品を購入してもらおう現場に立ち会った。

コロナ禍で中断もあったが、昨年1月から再開している。この日も、就労を



令和6年1月27日付け  
「洛タイ新報」紙面より